

2023年5月

佐 伯 通 信

【熱海だより】

2023年5月

佐 伯 通 信

【近刊予告】



見つめ合うみかんと、牛のかんた

佐伯通信

2023年5月(令和5)
第64号
発行
佐伯泰英事務所
担当/文藝春秋
禁・無断転載

歳との競争

歳のせいにはしたくないが新シリーズ「柳橋の桜」に苦勞している。第一巻『猪牙の娘』、第二巻『あだ討ち』は「応脱稿した。第三巻『二枚の絵』の最終章に入り、難航している。私

の文庫書下ろし時代小説は、読者に「考えさせる作品」ではなくひたすら「楽しませる読み物」にしか過ぎない。そんな気持ちでひたすら書き飛ばしてきたが、ただ今書いている主人公の名前が思い出せず、既刊の読み物の登場人物の名を間違えて書くようになった。やはり歳のせいかな。七十五歳のころまでワープロの前に座り、前日に書き終えた原稿を数枚読み返せば次なるストーリー展開が浮かぶというより、手がキーボードを叩いていた。最盛期(がある)すれば、ひとつ

佐伯泰英／近刊のお知らせ

10月 12日	9月 5日	8月 2日	7月 5日	6月 13日 7日	
《光文社文庫》 吉原裏同心 40「タイトル未定」	《文春文庫》 柳橋の桜 4「タイトル未定」	《文春文庫》 柳橋の桜 3「二枚の絵」	《文春文庫》 柳橋の桜 2「あだ討ち」	《光文社文庫》 『竈稲荷の猫』	《文春文庫》 柳橋の桜 1「猪牙の娘」
時代小説 299冊目	時代小説 298冊目	時代小説 297冊目	時代小説 296冊目	時代小説 295冊目	時代小説 294冊目

※発売日は予定です。

《光文社文庫》 吉原裏同心 [決定版]	6月13日 ㉔木枯らしの 7月12日 ㉕春淡し 8月9日 ㉖赤い雨 9月13日 ㉗祇園会	㉘夢を釣る ㉙まよい道 ㉚乱癒えず
----------------------------------	---	-------------------------

▼ 文春



PCやスマホでも /
佐伯作品が電子書籍で
読めます！

▼ 光文社



2023年5月

佐 伯 通 信

【PR】

文藝春秋 文春文庫部部長
大沼貴之
いつもご愛読いただき有難うございます。坂崎空也の武者修行を描いた「空也十番勝負」も日本屈指の秘境ともいわれる地での真剣勝負で完結を迎えました。皆様もきっと、お楽しみいただけたいと存じます。
さて、佐伯先生の巻頭言でもございまして、何と何と来月には新シリーズ「柳橋の桜」の刊行が控えております。
船頭をしている父親に育てられた主人公・桜子の活躍を描く本作品。父の背中を追って船頭になることを夢見る少女が、棒術道場で修行を重ね、その腕前と仕事ぶりで江戸中の評判を集めます。序章で登場する異人絵師の素描が物語の鍵となって参ります。スケールの大きなエンタメと真ん中の時代小説です。どうぞお楽しみに！



舞台は神田川、女船頭を夢見る桜子の
物語が幕をあける！
柳橋の桜
2023年6月～、4か月連続刊行！

近刊・作品情報はこちらでもチェックできます。
<https://www.saeki-bunko.jp> 佐伯泰英 ウェブサイト 検索

2023年の「佐伯通信」は、佐伯泰英事務所が㈱光文社、㈱文藝春秋の協力のもと発行します。

2023年5月

佐 伯 通 信

【熱海だより】

の読み物を二十日で書いていた折りだ。自慢することでもなんでもないが、その程度の読み物だ。こう手も頭も動かないとなると、読み物小説家としては晩節かと思わざるをえない。
だが、固定の読者の方々がおられる以上、ただ今進行中のシリーズは完結したい。ところがここで問題が生じた。強引に「酔いどれ小籾次」シリーズ完結と謳っていながら、どうも別れづらいのだ。これは「空也十番勝負」でも同様なことが起こっている。
丁寧に一作一作を大事に

執筆する作家には起こりえない現象だろう。来春の正月に時代小説三百冊目(二十五年間)を刊行する乱作物書きならではの珍現象だろう、恥ずかしい話だ。まあ、その程度の作家と己に言い聞かせている。というわけで帰ってきた赤目小籾次や坂崎空也と向き合う日々がそう遠くない時期に訪れそうだ。
話を新シリーズに戻す。なんとか三巻目『二枚の絵』を乗り切った。最終巻は勢いで起稿したいな。だが、その勢いが……。

『竈稲荷の猫』
読み切り最新作
6月13日発売！



『新酒番船』



『出綾と花かんざし』



『浮世小路の姉妹』

出版社からのお知らせ 光文社文庫